

河川整備の状況 (R2.5)

国土交通省 鳥取河川国道事務所

1. 逃げ遅れゼロに向けた迅速且つ的確な避難行動のための取組

(2) 発災時の迅速かつ確実な避難に関する事項

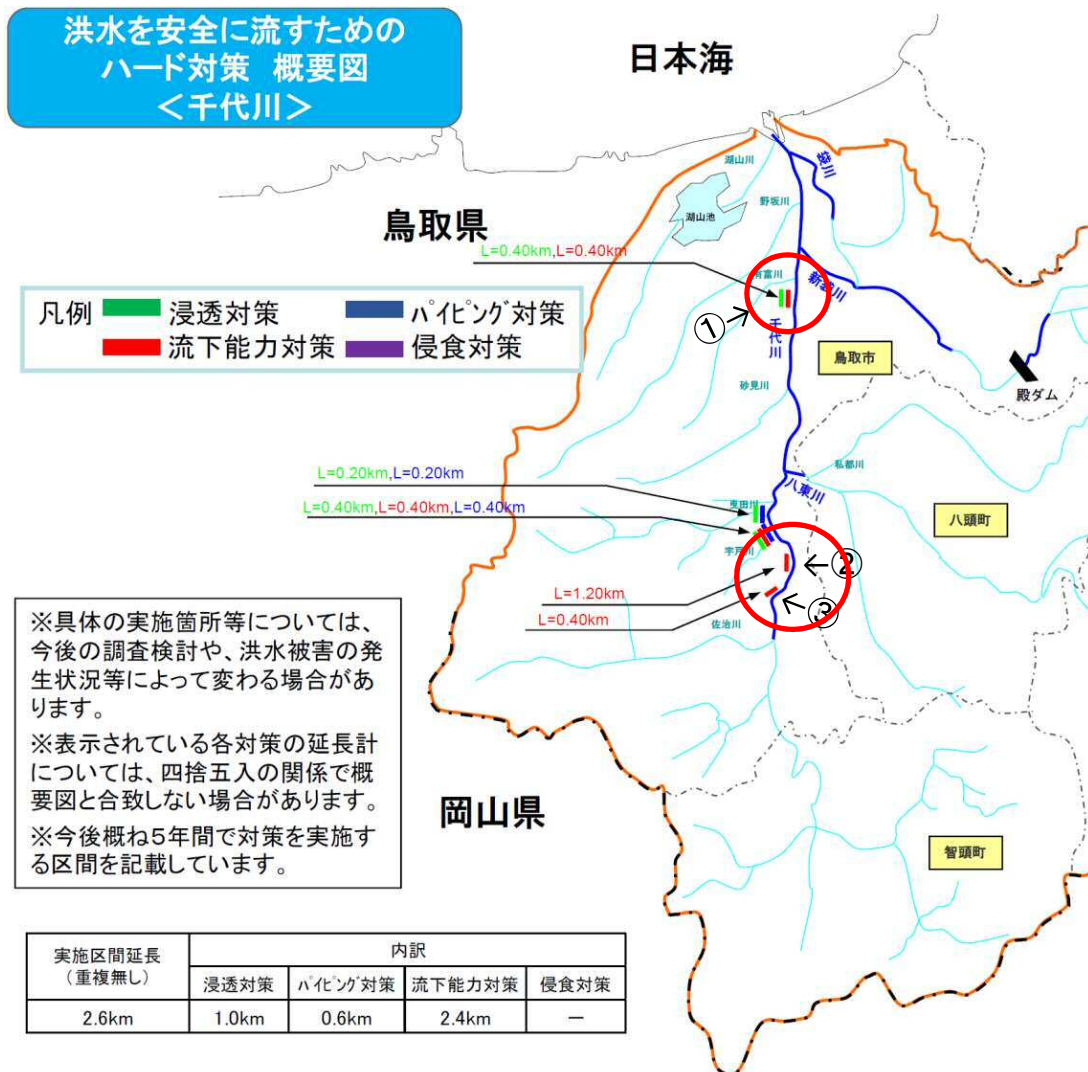
【実施項目】

- ⑪ 千代川本川において、堤防の浸透対策、パイピング対策を実施
- ⑫ 千代川本川上流域について、重点的に流下能力対策を推進
- ⑬ 千代川本川及び袋川において、堤防天端の保護を目的とした舗装を実施
- ⑭ 避難行動、水防活動に資する情報基盤の整備
- ⑮ 災害時に活動拠点となる施設の電源設備の耐水性の確保
- ⑯ 避難経路や水防活動の進入路となる道路、堤防管理用通路の浸水時の動線の確保

■洪水を未然に防ぐハード対策 ⑪⑫

- 千代川本川において、堤防の浸透対策、パイピング対策を行う。
- 千代川本川上流域について、重点的に流下能力対策を推進する。

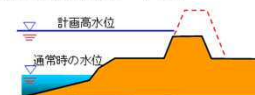
※流下能力が著しく不足している、あるいは漏水の実績があるなど、優先的に整備が必要な区間について、平成32年度を目途に堤防のかさ上げや浸透対策などの対策を実施。



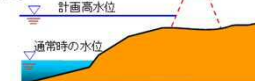
堤防のかさ上げ

【未完成の堤防】

- 堤防の断面が不足

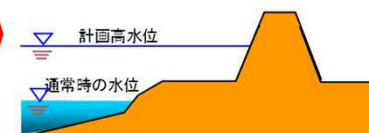


- 堤防がない



【完成された堤防】

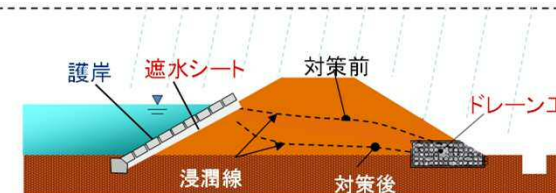
- 堤防の高さ・幅ともに計画上の断面を確保



浸透・侵食対策

＜浸透や侵食に対する対策工法＞

- ドレーン工、護岸や遮水シートの設置等、浸透や侵食に対する安全性を確保するための対策を実施



ドレーン工、護岸や遮水シートの設置例

— 直轄河川管理区間

— 流域界

■ 堤防の浸透対策、パイピング対策 ⑪

千代川7k600～8k000付近

【源太地区】

○堤防詳細点検の結果、**浸透破壊**に対して所定の安全性が確保されていないと判定された源太地区の堤防について、**堤防強化工事（ドレーン工）**を実施することにより**水害リスクの低減**を図ります。

○令和元年度に、約400mを施工しました。

河川水の浸透による堤防破壊



河川の水が、堤防内に浸透



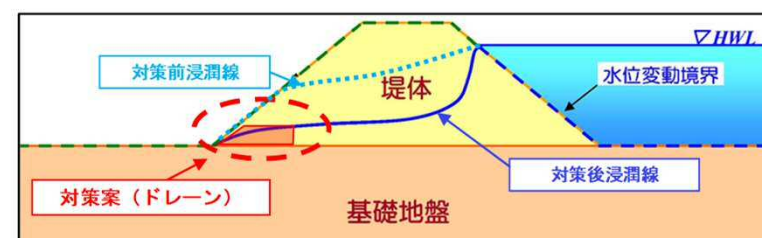
堤防の中の水位がさらに上がり、堤防が弱くなって崩壊しやすくなる



平面図(写真)



ドレーンを整備することで、堤防内の浸透水位を低くし、堤防の破壊(すべり)を防ぐ



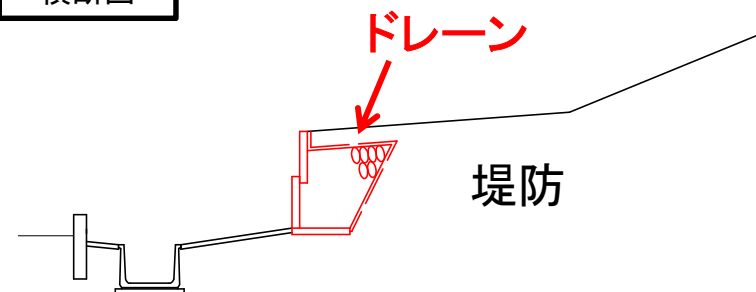
施工中



施工後



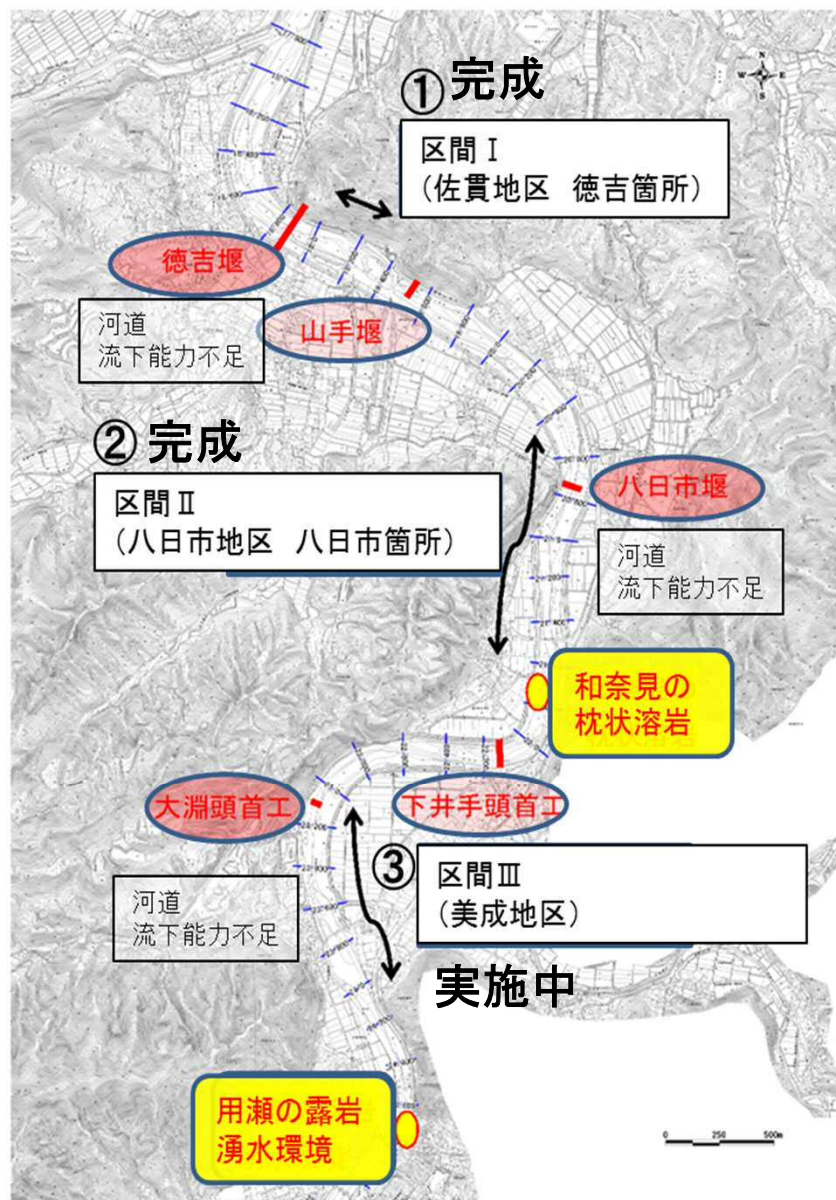
横断面図



上流地区流下能力対策 ⑫

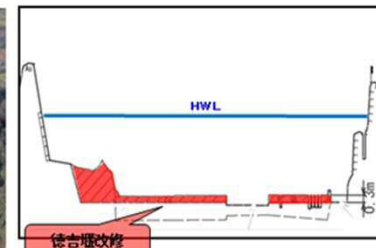
洪水を未然に防ぐハード対策

上流地区整備



① 徳吉箇所 (千代川18k900) (徳吉堰改修)

※平成28年4月完了

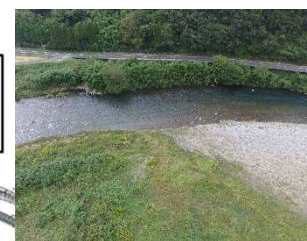


② 八日市箇所 (千代川20k800) (八日市堰改修)

※平成30年3月完了
(その他は令和2年3月完了)
移設前

整備内容

- ・堰の改修(移設)
- ・河床掘削



■上流流下能力対策(八日市地区)

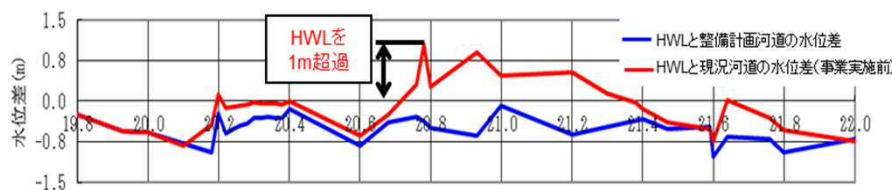
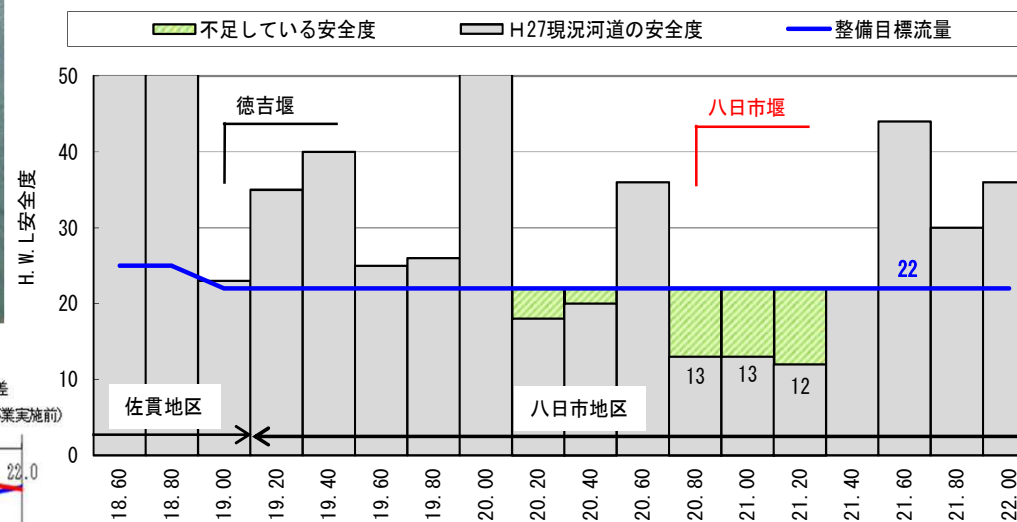
千代川18k800~20k900



【河床掘削・八日市堰改築】

- 佐貫地区・八日市地区では、固定堰による洪水時の水位のせき上げや堆積した土砂による河川断面不足が生じています。
- 平成26年度より、洪水に対する安全度を向上させるため佐貫地区の河川内に堆積した土砂の撤去を実施しており、平成28年度より八日市堰の改修工事（上流移設）に着手平成30年3月に完了、その他については令和2年3月に完了しています。

各地点の治水安全度



- 平成26年度は堰上流付近に堆積している土砂等を撤去し、洪水に対する安全度を向上させました。
- 平成26年度の土砂撤去だけでは洪水に対する安全度を確保できないため、平成27年度以降も河床掘削を推進し、目標とする「戦後最大洪水である昭和54年10月洪水と同規模の洪水(当該箇所では概ね20年に1回程度の洪水)」に対する安全度を確保します。

危機管理型ハード対策 ⑬

千代川18k800～20k900

【千代川天端舗装】

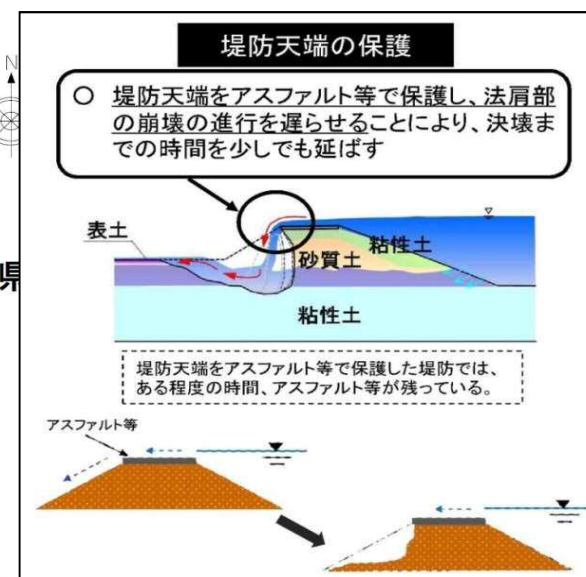
OH27年9月の関東・東北豪雨を契機として、新たに「水防災意識社会再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村において、令和2年度を目途に水防災意識社会を再構築する取組を行っています。

○千代川では洪水を安全に流すためのハード対策に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策（堤防の天端舗装）を実施中です。

危機管理型ハード対策 概要図 <千代川>



※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の状況等によって変わる場合があります。
 ※危機管理型ハード対策と併せて、住民が自らリスクを察知し、自避難できるようなソフト対策を実施予定です。
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係でと合致しない場合があります。
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。



舗装前の堤防天端状況



舗装後の堤防天端状況